2020年２月期　第３四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年１月14日

上場会社名　松竹　株式会社　上場取引所　東 札 福
コード番号　9601　ＵＲＬ　https://www.shochiku.co.jp
代表者　（役職名）代表取締役社長　（氏名）迫本　淳一
問合せ先責任者　（役職名）執行役員経理部長　（氏名）尾﨑　啓成　ＴＥＬ　03-5550-1699
四半期報告書提出予定日　2020年１月14日　配当支払開始予定日　－
四半期決算補足説明資料作成の有無：無
四半期決算説明会開催の有無　：無

（百万円未満切捨て）

１．2020年２月期第３四半期の連結業績（2019年３月１日～2019年11月30日）

（１）連結経営成績（累計）　（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年２月期第３四半期	73,766	10.2	3,840	32.6	3,557	51.1	2,275	58.3
2019年２月期第３四半期	66,937	△5.6	2,896	△46.1	2,355	△50.1	1,437	△51.7

（注）包括利益　2020年２月期第３四半期　1,590百万円（125.8%）　2019年２月期第３四半期　704百万円（△87.6%）

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年２月期第３四半期	165.63	－
2019年２月期第３四半期	104.63	－

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	１株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年２月期第３四半期	201,233	93,890	46.4	6,798.70
2019年２月期	208,345	92,726	44.3	6,714.22

（参考）自己資本　2020年２月期第３四半期　93,389百万円　2019年２月期　92,235百万円

（注）「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年２月16日）等を第１四半期連結会計期間の期首から適用しており、前連結会計年度に係る財政状態については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値となっております。

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年２月期	－	0.0	－	30.00	30.00
2020年２月期	－	0.0	－		
2020年２月期(予想)				30.00	30.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

３．2020年２月期の連結業績予想（2019年３月１日～2020年２月29日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	98,100	8.0	5,000	9.5	4,500	11.0	2,870	10.5	208.92

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※　注記事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

新規　－　社　（社名）　　、除外　－　社

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：無

②　①以外の会計方針の変更　：無

③　会計上の見積りの変更　：無

④　修正再表示　：無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年２月期３Ｑ	13,937,857株	2019年２月期	13,937,857株
②　期末自己株式数	2020年２月期３Ｑ	201,498株	2019年２月期	200,541株
③　期中平均株式数（四半期累計）	2020年２月期３Ｑ	13,736,851株	2019年２月期３Ｑ	13,738,198株

※　四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料Ｐ．３「１．当四半期決算に関する定性的情報（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）連結経営成績に関する説明 …… 2
（２）連結財政状態に関する説明 …… 3
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．四半期連結財務諸表及び主な注記 …… 4
（１）四半期連結貸借対照表 …… 4
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 6
（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項 …… 8
（継続企業の前提に関する注記） …… 8
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 8
（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用） …… 8
（連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更） …… 8
（追加情報） …… 8
（セグメント情報等） …… 9

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）連結経営成績に関する説明

当第３四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、相次ぐ自然災害の経済に与える影響や消費税率引き上げ後の消費者マインド動向に留意する必要があるものの、企業収益および雇用情勢の改善が続くなかで個人消費は持ち直しており、景気の緩やかな回復が続きました。

このような状況下、当企業グループはより一層の経営の効率化を図り、積極的な営業活動を展開いたしました。

以上の結果、当第３四半期連結累計期間は、売上高73,766百万円(前年同期比10.2％増)、営業利益3,840百万円(同32.6％増)、経常利益3,557百万円(同51.1％増)となり、特別損失106百万円を計上し、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,275百万円（同58.3％増）となりました。

セグメントの経営成績は次のとおりであります。

(映像関連事業)

配給は、６月公開の「ザ・ファブル」は、原作ファンをはじめ幅広い層に支持され、８月公開の「引っ越し大名！」は、シニア層に加え、キャストファンの幅広い世代の女性層に支持され、好調な成績となりました。９月公開の「人間失格 太宰治と3人の女たち」、10月公開の「HiGH&LOW THE WORST」も好評を博しました。

興行は、㈱松竹マルチプレックスシアターズにおいては、最先端の映像技術「Dolby Vision™（ドルビービジョン）」、立体音響技術の「Dolby Atmos®（ドルビーアトモス）」と、最適化されたシアターデザインの技術が一体となった「Dolby Cinema™（ドルビーシネマ）」を４月にＭＯＶＩＸさいたま、10月に丸の内ピカデリーに導入して、他社との差別化を図り、高稼働いたしました。

テレビ制作、映像ソフト、テレビ放映権販売、ＣＳ放送事業等は堅調に推移しました。

この結果、当第３四半期連結累計期間の売上高は41,869百万円（前年同期比19.5％増）、セグメント利益は2,000百万円（前年同期はセグメント損失64百万円）となりました。

(演劇事業)

歌舞伎座は、「三月大歌舞伎」は古典の名作を上演し充実した公演となりました。「四月大歌舞伎」は歌舞伎界の重鎮の活躍が目立ちました。「團菊祭五月大歌舞伎」は尾上菊之助の長男、七代目尾上丑之助の初舞台演目「絵本牛若丸」などが話題を集め、大盛況となりました。「六月大歌舞伎」は夜の部で三谷幸喜作・演出「月光露針路日本風雲児たち」の上演が大きな話題となりました。「七月大歌舞伎」は夜の部の、「義経千本桜」を基にした通し狂言「星合世十三團 成田千本桜」や昼の部の「外郎売」が注目を集め大人気興行となりました。三部制興行「八月納涼歌舞伎」は、幅広い演目を並べ好評を博しました。恒例となりました「秀山祭九月大歌舞伎」は高稼働し、「芸術祭十月大歌舞伎」「吉例顔見世大歌舞伎」も好評となりました。

新橋演舞場は、３月に多彩な出演者による「トリッパー遊園地」およびＯＳＫ日本歌劇団「レビュー春のおどり」を上演いたしました。４月、５月は新しく生まれ変わった「滝沢歌舞伎ＺＥＲＯ」を上演し大盛況となりました。６月の「熱海五郎一座」では、高島礼子、橋本マナミをゲストに迎え大好評でした。７月は新橋演舞場に４年ぶりの出演となった藤山直美の主演作「笑う門には福来たる～女興行師 吉本せい～」を上演いたしました。８月は新派公演「京都 都大路謎の花くらべ」およびコメディ作品「ブラックorホワイト？」をお贈りいたしました。９月は本格的ミュージカル「ペテン師と詐欺師」が好成績を収めました。10、11月はスーパー歌舞伎Ⅱ（セカンド）「新版オグリ」が市川猿之助、中村隼人のダブルキャストで人気を博しました。

大阪松竹座は、３月は恒例の関西ジャニーズＪｒ．公演が大盛況となり、４月の「レビュー春のおどり」は、桐生麻耶トップ披露公演をお贈りしました。５月の「笑う門には福来たる～女興行師 吉本せい～」公演では、藤山直美が２年半ぶりに大阪松竹座に復帰しました。６月の「三婆」公演では、大竹しのぶ、渡辺えり、キムラ緑子、人気３人の名演技で好成績を収めました。「七月大歌舞伎」は、“関西・歌舞伎を愛する会 結成四十周年記念公演”と銘打って、趣向を凝らした演目が評価を得ました。８月の関西ジャニーズＪｒ．公演は完売の盛況ぶりでした。９月は山田洋次監督の映画「家族はつらいよ」の舞台版を「九月新派公演」にて再演し、その大阪版を11月の松竹新喜劇公演「大阪の家族はつらいよ」として上演し、こちらも好評を博しました。

南座は、新開場記念の公演が続いており、３月の「坂東玉三郎特別公演」では、坂東玉三郎の美の世界がお客様を魅了し、５月「京都ミライマツリ２０１９」は革新をテーマにした新時代のお祭りを創出し、話題となりました。６月の新作歌舞伎「ＮＡＲＵＴＯ－ナルトー」および８月の「八月南座超歌舞伎」では、幅広い層のお客様がご来場されました。９月の「九月花形歌舞伎」は好成績を収め、10月の藤山直美主演「喜劇　道頓堀ものがたり」も大きな話題となりました。

その他の公演は、日生劇場で５月に「クイーン・エリザベス」、９月に「少年たち To be!」が上演され好成績を収めました。巡業公演では恒例の「四国こんぴら歌舞伎大芝居」が４月に行われ、二代目松本白鸚・十代目松本幸四郎襲名披露の全国公演が３月、４月に中央コース、６月、７月に東コースとして行われました。受注製作公演では、

博多座で「三月花形歌舞伎」および「六月博多座大歌舞伎」、名古屋御園座で４月「陽春花形歌舞伎」を製作いたしました。

シネマ歌舞伎、ＭＥＴライブビューイングは、堅調に推移しました。

この結果、当第３四半期連結累計期間の売上高は19,718百万円（前年同期比1.1％減）、セグメント利益は235百万円（同85.2％減）となりました。

（不動産事業）

不動産賃貸は、歌舞伎座タワー、築地松竹ビル（銀座松竹スクエア）、東劇ビル、新宿松竹会館（新宿ピカデリー）、有楽町センタービル（マリオン）、松竹倶楽部ビル等の満室が続き、昨年秋に竣工の京都松竹阪井座ビルにおきましても満室稼働となり、全体でも高い稼働率で安定収入に貢献しました。また、各テナントとの賃料交渉にも誠実に対応し、利益を確保いたしました。

この結果、当第３四半期連結累計期間の売上高は8,311百万円（前年同期比5.4％増）、セグメント利益は3,738百万円（同7.4％増）となりました。

（その他）

プログラム・キャラクター商品は、劇場プログラム及びキャラクター商品で「HiGH&LOW THE WORST」「ジョーカー」「映画 すみっコぐらし とびだす絵本とひみつのコ」が収益に貢献しました。映画作品以外の取り組みとして「ラグビーワールドカップ2019日本大会」と歌舞伎のコラボ商品やスーパー歌舞伎Ⅱ（セカンド）「新版オグリ」関連商品等を展開し好調に推移しました。

イベント事業は、「有楽町マリオン35周年記念イベント」等が人気を博しました。

キャラクター「かぶきにゃんたろう」プロジェクトにおいては、関連商品の販売が積極的に行われた他、他社へのライセンス活動も積極的に展開しました。

貸衣裳事業、清掃事業及び舞台大道具製作事業は堅調な成績をあげております。

この結果、当第３四半期連結累計期間の売上高は3,866百万円（前年同期比5.3％減）、セグメント利益は213百万円（同23.0％減）となりました。

（２）連結財政状態に関する説明

当第３四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ7,111百万円減少し、201,233百万円となりました。これは主に現金及び預金（責任財産限定対象）が減少したこと等によるものであります。

なお、責任財産限定特約付の社債償還及び借入金返済に伴い、その対象となっていた現金及び預金（責任財産限定対象）、建物及び構築物（責任財産限定対象）（純額）、並びに長期前払費用（責任財産限定対象）は、現金及び預金、建物及び構築物（純額）、並びに「投資その他の資産」のその他にそれぞれ振り替えております。

負債は、前連結会計年度末に比べ8,275百万円減少し、107,343百万円となりました。これは主に長期借入金の増加があったものの、１年内返済予定の長期借入金（責任財産限定）の減少等によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ1,163百万円増加し、93,890百万円となりました。これは主にその他有価証券評価差額金の減少があったものの、利益剰余金が増加したこと等によるものであります。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年２月期の連結業績予想につきましては、当第３四半期連結累計期間の業績及び今後の見通しを検討した結果、現時点においては2019年４月12日付「2019年２月期　決算短信」にて発表いたしました連結業績予想からの変更はありません。

２．四半期連結財務諸表及び主な注記

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （2019年２月28日）	当第３四半期連結会計期間 （2019年11月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	19,005	22,399
現金及び預金（責任財産限定対象）	11,857	－
受取手形及び売掛金	6,942	8,942
商品及び製品	2,000	1,945
仕掛品	4,458	3,200
原材料及び貯蔵品	85	99
その他	4,102	3,119
貸倒引当金	△8	△15
流動資産合計	48,444	39,690
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	28,569	44,376
建物及び構築物（責任財産限定対象）（純額）	17,438	－
設備（純額）	11,305	11,627
土地	41,080	41,888
その他（純額）	6,760	8,330
有形固定資産合計	105,155	106,222
無形固定資産		
その他	2,539	2,651
無形固定資産合計	2,539	2,651
投資その他の資産		
投資有価証券	31,252	31,630
長期前払費用（責任財産限定対象）	12,614	－
退職給付に係る資産	1,032	1,006
その他	7,405	20,164
貸倒引当金	△98	△132
投資その他の資産合計	52,205	52,668
固定資産合計	159,900	161,543
資産合計	208,345	201,233

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （2019年２月28日）	当第３四半期連結会計期間 （2019年11月30日）
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,805	7,876
短期借入金	4,157	4,243
1年内償還予定の社債	―	1,100
1年内償還予定の社債（責任財産限定）	500	―
1年内返済予定の長期借入金	9,076	12,508
1年内返済予定の長期借入金（責任財産限定）	20,310	―
未払法人税等	791	877
賞与引当金	486	202
その他	7,968	10,063
流動負債合計	51,097	36,871
固定負債		
社債	1,100	―
長期借入金	42,939	50,134
役員退職慰労引当金	980	991
退職給付に係る負債	1,405	1,439
資産除去債務	1,362	1,400
その他	16,732	16,505
固定負債合計	64,521	70,471
負債合計	115,618	107,343
純資産の部		
株主資本		
資本金	33,018	33,018
資本剰余金	30,136	30,136
利益剰余金	20,138	21,999
自己株式	△1,439	△1,452
株主資本合計	81,853	83,701
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	9,895	9,281
為替換算調整勘定	―	△27
退職給付に係る調整累計額	486	433
その他の包括利益累計額合計	10,381	9,687
非支配株主持分	491	500
純資産合計	92,726	93,890
負債純資産合計	208,345	201,233

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第３四半期連結累計期間

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　2018年３月１日 至　2018年11月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自　2019年３月１日 至　2019年11月30日）
売上高	66,937	73,766
売上原価	37,956	42,768
売上総利益	28,980	30,998
販売費及び一般管理費	26,084	27,157
営業利益	2,896	3,840
営業外収益		
受取利息	6	5
受取配当金	268	284
持分法による投資利益	57	－
その他	102	154
営業外収益合計	435	445
営業外費用		
支払利息	553	453
借入手数料	239	138
持分法による投資損失	－	43
その他	183	92
営業外費用合計	976	728
経常利益	2,355	3,557
特別損失		
固定資産除却損	53	106
特別損失合計	53	106
税金等調整前四半期純利益	2,302	3,451
法人税、住民税及び事業税	993	1,284
法人税等調整額	△139	△118
法人税等合計	854	1,166
四半期純利益	1,448	2,284
非支配株主に帰属する四半期純利益	10	9
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,437	2,275

四半期連結包括利益計算書
第３四半期連結累計期間

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　2018年３月１日 至　2018年11月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自　2019年３月１日 至　2019年11月30日）
四半期純利益	1,448	2,284
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△720	△613
為替換算調整勘定	－	△27
退職給付に係る調整額	△19	△53
持分法適用会社に対する持分相当額	△3	－
その他の包括利益合計	△743	△694
四半期包括利益	704	1,590
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	693	1,580
非支配株主に係る四半期包括利益	10	9

（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）

該当事項はありません。

（連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更）

第１四半期連結会計期間において、当社の連結子会社であるST MEDIA ENTERTAINMENT PTE. LTD.がBHD Media Joint Stock Companyの株式を取得したため、持分法適用の範囲に含めております。

（追加情報）

（「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用）

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年２月16日）等を第１四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

Ⅰ　前第３四半期連結累計期間（自　2018年３月１日　至　2018年11月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	映像関連事業	演劇事業	不動産事業	その他（注）1	合計	調整額（注）2	四半期連結損益計算書計上額（注）3
売上高							
外部顧客への売上高	35,028	19,940	7,887	4,080	66,937	－	66,937
セグメント間の内部売上高又は振替高	104	92	1,230	3,014	4,442	△4,442	－
計	35,133	20,032	9,117	7,095	71,379	△4,442	66,937
セグメント利益又は損失（△）	△64	1,590	3,479	277	5,282	△2,385	2,896

（注）１．「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、舞台衣裳の製作・販売・賃貸、プログラムの製作・販売、キャラクター商品の企画・販売、演劇舞台の大道具・小道具・音響の製作・販売、音楽著作権の利用開発・許諾、不動産の管理・清掃等であります。

２．セグメント利益又は損失（△）の調整額△2,385百万円には、セグメント間取引消去14百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△2,400百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務部門等管理部門に係る経費であります。

３．セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ　当第３四半期連結累計期間（自　2019年３月１日　至　2019年11月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	映像関連事業	演劇事業	不動産事業	その他（注）1	合計	調整額（注）2	四半期連結損益計算書計上額（注）3
売上高							
外部顧客への売上高	41,869	19,718	8,311	3,866	73,766	－	73,766
セグメント間の内部売上高又は振替高	91	81	1,399	2,810	4,382	△4,382	－
計	41,961	19,800	9,710	6,676	78,149	△4,382	73,766
セグメント利益	2,000	235	3,738	213	6,187	△2,347	3,840

（注）１．「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、舞台衣裳の製作・販売・賃貸、プログラムの製作・販売、キャラクター商品の企画・販売、演劇舞台の大道具・小道具・音響の製作・販売、音楽著作権の利用開発・許諾、不動産の管理・清掃等であります。

２．セグメント利益の調整額△2,347百万円には、セグメント間取引消去28百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△2,375百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務部門等管理部門に係る経費であります。

３．セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。